

1 今を知る 2 背景を探る 3 予測する 4 話し合う



今月のテーマ

SDGs

「持続可能な開発目標 (SDGs)」は達成に向けて「誰一人取り残さない」と強調する。前回学んだように、17の目標は幅広い分野に及び、それぞれの達成は密接に関連する。2030年の目標達成期限に向け、すべての国とすべての人の行動が期待されている。

すべての人が行動

国も企業も商店街も

日欧企業で差



企業活力研究所の2016年調査によると、SDGsなど社会課題の解決への取り組みについて、日本企業の69.9%が「企業の責任として重要」と答えた(複数回答)。調査には143社が回答し「持続可能性に関わる企業価値の向上において重要」68.5%、「本業の一環として取り組んでいる」62.9%などが続いた。欧州52社への調査では「企業の価値やサステナビリティ戦略の一部」88.5%、「新たなビジネスチャンス」63.5%などの順に多かった。「ビジネスチャンス」との回答は日本では37.1%にとどまり、欧州との認識の違いがうかがえた。

社会課題解決の位置づけは……



Check!

- 日常生活でSDGs達成に貢献していることはあるか。
企業のホームページでSDGsへの取り組みを調べよう。

日本でもSDGs達成への取り組みを表明するSDGs推進本部(本部長・安倍首相)のジャパンSDGsアワードをみると、最優秀の本部長賞は第1回(17年)が地方自治体の北海道下川町、第2回(18

年)が株式会社日本フードエコーロジセンター、第3回(19年)が魚町商店街振興組合(北九州市)だった。組織のあり

永谷園グループはSDGsとどう関わっているか

Table with 4 columns: 商品開発からの流れ, テーマ, 取り組み, 関連するSDGs. Rows include Design (Design, Environment), Production (Production), Sales (Sales), and Use (Use).

年)が株式会社日本フードエコーロジセンター、第3回(19年)が魚町商店街振興組合(北九州市)だった。組織のあり

方、活動分野も異なる団体が受賞している。下川町は総合的な森林産業への取り組みがSDGsの「働きがいも経済成長も」などに貢献すると評価された。

料製造が「つくる責任つかう責任」など、魚町商店街振興組合は遊休不動産を再生するリノベーションまちづくりが「住み続けられるまちづくりを」などに貢献するとされた。
企業活動と両立SDGs達成に向けては企業が注目されている。企業の評価はCSR(企業の社会的責任)や社会課題の解決と企業利益の両立を目指すCSV(共創価値)が重視され、事業活動がSDGs達成への貢献につながるからだ。
お茶漬けで知られる永谷園ホールディングスは18年からグループ全体としての「環境・社会報告書」で、自社商品の「創る」から「使う」までの流れと、関連するSDGsを図解している。達成に貢献できるSDGsは延べ13になる。広報部は「個々の業務とSDGsとのつながりを明確にする」ことで社員の意識を高め、社会に貢献する企業として成長できる」としている。(今月の担当・渡辺 久)

1 今を知る 2 背景を探る 3 予測する 4 話し合う



「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、達成期限の2030年まであと10年だ。その時、18歳の君たちは28歳になっている。「こうありたい」と願う未来の自分、未来の暮らしを想像することが、世界共通の目標であるSDGs達成につながる。

想像力 達成の鍵

未来世代の立場で議論

■ 京都市の挑戦

地球温暖化を招くCO2(二酸化炭素)排出量を2050年までに正味ゼロにする。京都市はこんな目標を掲げている。実現に向け昨年9月、50年の市政を担う若手職員25人で作る「未来世代職員フェューチャアサインチーム」が活動を始めた。「50年に生きる未来世代の職員」になりきって議論し、今年1月、持続可能な50年の京都市の姿と、実現のため30年までに取り組むべき施策をまとめた。

「50年にはエネルギーを自給自足している。30年までに『京都型エネルギーシエリング』を推進する」「移動はクリーンエネルギーの公共交通を活用している。マイカー課税などで移動手段の転換を

図る」。未来世代の立場からの様々な提言について、市地球温暖化対策室の河合要子係長は「脱炭素を目指すことは負担ではなく、地域を豊かにする機会だ」という価値観の転換が起るとみる。

■ 課題解決の進展は

SDGsはどの程度達成できているのだろうか。国連の「持続可能な開発目標報告2019」は目標の進捗状況を記す。「貧困をなくそう」については、15年で7億3600万人が極度の貧困の中で暮ら

し「貧困に終止符を打つめどは立っていない」とする。「飢餓をゼロに」では、17年に栄養不良に陥っていた人は8億2100万人で15年の7億8400万人から増加した。後開発途上国に目を向けると、実質国内総生産(GDP)成長率は4・8%でターゲットの7%に達せず、1人当たり製造業付加価値は114%で欧米の493・8%にはるかに及ばない。

■ 変わる世界

野村総合研究所の「NRI未来年表2020」によると、インドの実質GDPは37年に米国を、インドネシアは40年に日本を抜くという。日本の人口は減少するが、世界人口は増え続け、57年には100億人に達する見込みだ。アフリカの人口が世界の30%を占める時代が来る。SDGsは情勢が変化しても持続可能な世界の基礎を築く。達成は未来世代に対する現世代の責務でもある。

(今月の担当・渡辺嘉久)

達成度 北欧が上位

世界各国のSDGs達成度はドイツのベルテルスマン財団などが報告書として発表している。「サステナブル・ブランド ジャパン」によると、2019年は1位デンマークにスウェーデン、フィンランドが続き、北欧3か国が上位を占めた。日本は15位で、17の目標のうち特に「ジェンダー平等を実現しよう」「つくる責任つかう責任」「気候変動に具体的な対策を」「パートナーシップで目標を達成しよう」への取り組みが課題だとされた。トップ10国外では英国13位、米国35位、中国39位などだった。

2019年SDGs達成度ランキング ()は前年の順位

- 1位(2) ↑ デンマーク
- 2位(1) ↓ スウェーデン
- 3位(3) → フィンランド
- 4位(5) ↑ フランス
- 5位(9) ↑ オーストリア
- 6位(4) ↓ ドイツ
- 7位(13) ↑ チェコ
- 8位(6) ↓ ノルウェー
- 9位(11) ↑ オランダ
- 10位(16) ↑ エストニア
- 15位(15) → 日本

Check!

- ・2050年はどんな社会で暮らしていきたいか。
- ・そのために改めねばならないことは何だろう。



京都市では若手職員が2050年の未来を考えた(京都市提供)

目標 現状

目標	現状
7	(貧困) 極度の貧困で暮らす人 3600万人
8	(飢餓) 栄養不良に陥った人 2100万人
5	(健康・福祉) 5歳未満の死者 540万人
4	(教育) 読み書き・算術ができない子どもと思春期の若者 1700万人
8	(経済) 後開発途上国の実質GDP成長率 4.8%
9	(産業) 後開発途上国の1人当たり製造業付加価値 114%
11	(まちづくり) スラムのような環境で暮らす都市住民の割合 4人に1人
13	(気候変動) 産業革命前の平均気温を上回る 約1℃

※主なもの。国連「持続可能な開発目標(SDGs)報告2019」から



国連が2015年に採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」は、17の目標を達成することで、全ての人々が幸せを実感できる世界を目指している。実現のため一人ひとりができることは何だろうか。未来を持続可能な社会にするヒントを聞いてみた。

自分ができることは?

5/23



杉浦真理さん 56
立命館宇治高校教諭

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

小幡道子さん 40
電通 TeamSDGs
メンバー



不便でも未来の利益に

SDGsは全ての人々が当事者として取り組む持続可能な社会づくりを目指す。人類が生存可能な環境や限りある資源を次世代に引き継ぎ、誰一人取り残さず、格差や差別のない平等な社会を実現することが重要だ。童話作家の宮沢賢治が示した「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という世界観にも通じる。

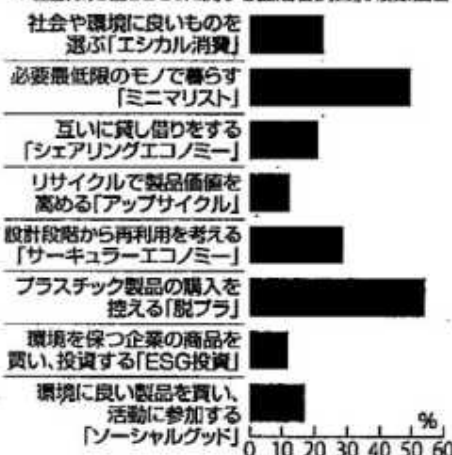
ポイントは未来軸でつながりを考えることだ。地球温暖化問題のように、今の豊かな暮らしを続ける幸せと、未来の幸せにズレを感じることも多い。しかし、

温室効果ガスを排出する石油などの使用を減らせば、温暖化を抑制し、持続可能な社会を未来に引き継ぐことができる。今の暮らしが不便になっても、自分たちの社会の未来、つまりは自分の利益につながる。

世界で活躍できるグローバルリーダー育成を目指す高校では、国際社会の課題、企業進出や多文化の軋轢などを考える力を重視している。生徒がSDGs的な視点で世界を見渡し、開発途上国の教育支援や交流事業を進める例が増えればいい。新型コロナウイルスの感染拡大は生徒の暮らしにも影響している。この問題で国連、政府、医療、製薬会社などが、どうつながり、対処しているか。生徒が考える機会を作ってほしい。

◆生活に取り入れたいことは…

※電通「第3回SDGsに関する生活者調査」。複数回答



電通が1月に行った「第3回SDGsに関する生活者調査」によると、SDGsという言葉を知ったことがある人は29.1%で、小中高生や大学生など「学生」に限ると45.1%に上昇する。若い人は未来を自分のこととして考え、取り組むことができるのだろう。

持続可能な開発には経済、社会、環境という3要素の調和が求められる。経済、社会を発展させようとすると環境が悪くなるといった難しい問題もある。一方で環境が維持されないと、経済と社会の発展は止まってしまう。バランスを

知恵出し合う場作りを

取るには、自分の利益や関心のあることだけを重視して追い求め、その中に閉じこもることは避けなければならない。色々な立場にある人たちの意見を取り入れ、みんながより良い状態になる知恵を出し合うことが大切だ。

日本では特に知恵を出し合う「場」を作ることが難になる。一つの企業、業界で解決できない問題は、隣の企業、業界と一緒に取り組む。そのための情報交換や、大人と子どもが世代を超えて話し合える場を作りたい。

SDGsをテーマにしたシンポジウムやセミナーは多く行われている。積極的に参加し、仲間を探してほしい。学生にとって企業は少し遠い存在かもしれないが、柔軟で自由な発想は歓迎されると思う。

Check!

- SDGsの17の目標は、それぞれどう関連しているだろう。
- SDGs達成に向けて、今からできることを考えよう。



※6月のテーマは「再生可能エネルギー」。5月30日はKODOMO俳句の拡大版をお届けします。